

【各住民センター保管 DVD一覧】

番号	ジャンル	タイトル	内容	形式	時間	DVD 活用 ガイド	制作年	柏原 住民センター ☎72-2552	水上 住民センター ☎82-3719	青垣 住民センター ☎87-0363	春日 住民センター ☎74-0225	山南 住民センター ☎77-0310	ライブピア いちじま ☎85-3030
1	社会におけるひきこもりと人権	見上げれば	ひきこもりの背景や状態は人それぞれですが、長期化すると社会や人に対する恐怖感が強まり、本人や家族の人生に深刻な影響を与えます。就職・再就職の難しさ、家族もどうしていいかわからず心身が疲弊するなど、その苦悩は計り知れません。さらに、地域社会との関わりが乏しく存在が見えづらいため、家族だけで悩みを抱え込む現実があります。 このドラマでは、できるだけ早い段階で適切な支援につながることの重要性、信頼できる他者とのつながりや、寄り添ってくれる人のいる「居場所」が回復のきっかけになることを伝えます。どのような状況の人にも、寄り添い合い、誰もが支え合える社会の実現をめざし、人権啓発ドラマを制作しました。	実写	34分	○	2025	○	○	○	○	○	○
2	こどもの人権	あなたのいる庭	社会には、虐待や貧困、死別など様々な理由で保護者と暮らせず、児童養護施設など社会的養護のもとで暮らしている子どもたち、そして社会的養護下から自立したが、家族からのサポートを得られずに生きる人たち(ケアリーパー)がいます。社会的養護の現状や実態を知る人は少なく、世間からの無理解と偏見にさらされ、居場所を見い出せず、進学や就職など生きる上で様々な困難に直面している現状があります。次代の社会を担う子どもたちが自分らしく幸せに成長でき、暮らせるように、社会全体で支えていかなければなりません。「子どもと人権」について改めて考え、誰もが一人の人間として尊重される社会の実現をめざすことを目的として、人権啓発ドラマを制作しました。	実写	35分	○	2024	○	○	○	○	○	○
3	部落差別(同和問題)	大切なひと	現代社会におけるインターネットは利便性が高く、SNSや動画投稿サイトなどを通して自由に意見表明することができるのが特徴です。一方で、インターネット上では他者からの評価が自身の評価と誤認し、部落差別・外国人差別といった偏見や差別を助長するような情報を発信する行為がみられます。ときに投稿者自身も第三者から誹謗中傷を受けることがあり、現在深刻な人権問題となっています。 インターネット上の一部の情報が、誤った差別意識を助長すること、表現の自由を逸脱した許されない行為であると気づく大切さ、差別されている当事者が訴え続けるという負担を強いる社会構造の実態について理解するとともに、差別のない社会、誰もが一人の人間として尊重される社会の実現をめざすことを目的として、人権啓発ドラマを制作しました。	実写	34分	○	2023	○	○	○	○	○	○
4	性的マイノリティの人権	パースデイ	今回の作品のテーマは、「性の多様性を認め合う～誰もが自分らしく生きられる社会をめざして～」です。 性的少数者については、依然として社会理解が進まず、偏見や差別、配慮に欠けた対応などで、自身の思いや悩みを打ち明けることが難しく、周囲の無理解に苦悩し、生きづらさを感じている状況など様々な問題があり、深刻な人権問題になっています。一方、性的少数者であることを打ち明けられた家族や友人等は、既成概念による偏見や知識不足によって、理解しようと向き合う前に混乱や抵抗感にとらわれてしまうことが多くあります。 性の在り方は多様で一人ひとりの人権に関わることであるため、性的少数者の存在や悩みに気づくことが大切です。この作品を性的少数者について理解するきっかけとし、その多様性を認め、互いの人権を尊重することは、すべての人が自分らしく生きていける社会につながっていきます。そのような社会の実現をめざすことを目的として、人権啓発ドラマを制作しました。	実写	37分	○	2022	○	○	○	○	○	○

5	子ども・若者の人権	夕焼け	<p>今回の作品のテーマは、「ケアラー～だれもが人権尊重される社会を～」です。</p> <p>相手が家族や親しい人であっても、毎日誰かの介護や世話をすることは、身体的、精神的、さらに経済的にも大きな負担がかかります。特にヤングケアラーは、学校に通い、教育を受け、友人と交流を通して成長する重要な時期であるにもかかわらず、その状況が周囲から見過されることが多いという問題があります。</p> <p>主人公、瑠依は、幼い弟の世話や家事に追われる生活にしんどさを感じつつも、「家族のことは家族でするのが当たり前」という思い込みから、気持ちを押し殺して生活しているヤングケアラーです。しかし、元ケアラーの灯との交流によって、自分の状況や本当の気持ちについて見つめ直し、将来に向き合うための一歩を踏み出します。この作品では、お互いを気にかけて、人と人がつながっていくことが、ケアラーと家族が抱える問題解決の糸口になる様子を描きます。</p> <p>ケアは、他人事ではありません。だれもがケアする側にもケアされる側にもなります。年齢属性を問わず、共に助け合える『だれもが人権尊重される社会』の実現をめざすことを目的として、人権啓発ドラマを制作しました。</p>	実写	35分	○	2021	○	○	○	○	○	○
6	その他の人権課題	カンパニユラの夢	<p>近年、主に「80代」の高齢の親が「50代」のひきこもりが長期化した子を支えている家庭が増加しています。「8050問題」とは、こうした過程が地域社会との接点を失い、親子ともども生活が困窮するなどの課題を抱え、将来への展望が見いだせない超高齢化社会における新たな社会問題のことです。</p> <p>背景には、家族や本人の病氣、親の介護、離職(リストラ)、経済的困窮、人間関係など、複合的な課題を抱えながらも、親子共倒れの問題が発生するまでSOSの声を上げることができない、現在の超高齢化社会における「家族の孤立」が地域に潜在化していることがあります。</p> <p>この作品は、二つの家族の視点が進行します。主人公の岸本麻帆はあることをきっかけに「ひきこもり」は誰にでも起こり得ることだと気づきます。一方、20年以上ひきこもり状態にある谷口誠一とその両親は問題が長期化するまでSOSの声を上げることができないまま苦悩しています。麻帆は谷口家の抱える問題に寄り添い、解決策を求め行動を起こします。</p> <p>急速に高齢化が進む今、8050問題は誰にでも起こりうることで認識し、地域の人々がひきこもりなどの悩みを共有し偏見をなくすとともに、互いに助け合うことで地域共生社会の実現をめざす人権ドラマです。</p>	実写	36分	○	2021	○	○	○	○	○	○
7	外国人の人権	サラーマット～あなたの言葉で～	<p>訪日外国人の増加や改正出入国管理法など、外国人の人々と接する機会が増え、職場や地域で共に生きる時代となっています。一方で、文化、言語、習慣などの「違い」や偏見から、外国人が増えることに抵抗を感じる人も少なくありません。</p> <p>また、スマホの急速な普及によって、SNS内でのいじめなどが深刻化し、社会問題になっています。一人ひとりがSNSを利用する際のマナーや配慮について考えていく必要があります。</p> <p>この作品の主人公・珠美は、新しく職場に来たフィリピン人のミランダに対し、様々な「違い」を「壁」と捉え、面倒な存在だと感じてしまいます。しかし、自分とは異なる文化や考えを持つミランダとの対立や交流を通して、珠美は新たな視点に気づかされ、「違い」は様々な問題解決の糸口になることも学んでいきます。珠美とミランダの姿を通して外国人は「受け入れてあげられる存在」でも「労働力」でもなく、助け合うことのできる対等な仲間であると、SNSを傷つけるための道具としてでなく、人の心と心をつないでいくために利用する様子を描きます。</p> <p>「違い」は壁ではなく、自分自身を成長させ、地域を豊かにする源です。異なる文化の人たちを、共に未来をつくる新しい存在として、尊重し、互いに高め合っていく。そんな多文化共生社会の実現をめざす啓発ドラマです。</p>	実写	36分	○	2019	○	○	○	○	○	○

8	子ども・若者の人権	君が、いるから	母親からの心理的虐待に悩む若者「奏」が主人公です。生き方を制限され、自分が愛されていると感じることができず自己肯定感の低い彼女も、コンビニエンスストアを舞台とした「ほんの小さな冒険」をきっかけに少しずつ変わっていきます。彼女は、そこで出会う人々とのふれあいを通して新たな価値観に気づいていきます。ともに心を通わせ、信頼することの先に「希望」と「幸せ」があることを奏の成長を通して描いています。子どもや若者が社会的に成長し自立していくために、人と人が関わり支え合いながら希望の種をまいていく、そんな社会の実現をめざす作品です。	実写	33分	○	2018	○	○	○	○	○	○
9	女性の人権	あした咲く	この作品には、生き方の異なる姉妹が登場します。独身で会社員の妹・茜と、専業主婦の姉・翠。それぞれの立場ゆえの悩みや葛藤を抱えています。姉妹での対立や、父との対話、そして、地域の人々とのふれあいを通して、別の視点や価値観に気づきます。「幸せ」の形は十人十色です。自分で自分の生き方を選択し、女性はもちろんすべての人が「自分の花」を生き活きと咲かせることのできる多様性を尊重する社会。その実現をめざすきっかけとなる作品です。	実写	36分	○	2017	○	○	○	○	○	○
10	障がいのある人の人権	風の匂い	スーパーマーケットで働く青年、歩と正人が主人公です。歩には知的障害がありますが、子どもの頃は共に遊び、共に学ぶ「大切な友だち」でした。しかし、大人になった二人を隔てる健常者と障害者という壁。その壁を作っているのは誰なのか。二人の成長と職場での人間模様を通して、社会的な課題でもある『合理的配慮』についても触れ、見る方々が自分自身の問題として考えるきっかけとなるドラマ教材です。	実写	34分	○	2016	○	○	○	○	○	○
11	高齢者の人権	ここから歩き始める	「認知症を共に生きる」をテーマに、高齢者問題を人の幸せと尊厳を守るという人権の視点から捉えます。認知症の親をもつ主人公とその家族の中で繰り返られる介護をめぐる葛藤とさすなの紡ぎなおしを描くことで、高齢者が人間として誇りをもって生きていく上で大切なことについて家族や地域の視点を通して考えるきっかけとなるドラマ教材です。	実写	34分	○	2015	○	○	○	○	○	○
12	部落差別(同和問題)／インターネットによる人権侵害	あなたに伝えたいこと	この物語の主人公は、ごく普通の若い女性です。物語が進む中で、彼女は、自分の祖母や母が同和問題でつらい思いをしてきたことを知ります。彼女の結婚話を中心に、恋人や友人、家族などとの関わりを通して、この問題が決して他人事でないこと、ネット上の情報だけではなく実際に人とふれあう中で、お互いを正しく知り合うことが同和問題やすべての差別をなくしていくために重要であることを、明るい希望とともに伝えます。	実写	36分	○	2014	○	○	○	○	○	○
13	その他の人権課題	ヒーロー	家族や地域、職場のつながり、いわゆる血縁や地縁、社縁の希薄化による問題(無縁社会)を考えていく内容。「無縁社会」の中で、地域で起こる身近な人権問題に対し、傍観者としてではなく、主体的に行動することで、新たな地域のつながりを結んでいく大切さを実感していくために制作されている。	実写	34分	○	2013	○	○	○	○	○	○
14	人権全般	ほんとの空	多くの人権課題に共通する根っこの部分は私たちの誤った考え方や思い込み、偏見という「意識」です。本作品では、誤解や偏見に焦点を当て、全ての人権課題を自分に関わるものとして捉え、日常の行動に繋げていくことを目的に制作されています。	実写	36分	○	2013	○	○	○	○	○	○
15	人権全般	桃香の自由帳	劇的な事件は描かず、どの地域でも起こりうる出来事に光を当てています。日常の何気ない言動を振り返ることで、現代を生きる私たちが見失いつつある、人と人が寄り添いあい、共に生きる温かな世界とは何かについて語りかけます。	実写	36分	○	2012	○	○	○	○	○	○

16	子ども・若者の人権	クリームパン	子どもの虐待や若者の自殺など社会問題になっている事件を通して、社会や地域の中で孤立している人々に対する正しい理解を訴えるとともに、今一度、「いのち」について自分の問題として考えます。	実写	36分	○	2011		○		○		○
17	インターネットによる人権侵害	あの空の向こうに	お互いに「思い」を交わし、心の寄り添うようなコミュニケーションを図ることの大切さと、家族の果たす役割にも気付かせます。	実写	38分	○	2010		○				
18	人権全般	親愛なる、あなたへ	無関心、無理解という冷たい壁を破って、暖かい見守りと相互支援を進めることの大切さを語りかけます。	実写	37分	○	2009		○				
19	人権全般	人権のヒント(地域編)	日常に潜む人権問題を「地域編」と「職場編」の二つの視点から切り取り、自分のなかの人権意識を考えます。	実写	25分	○	2010	○		○		○	
20	人権全般	日常の人権 I	日常生活の中に潜むさまざまな人権問題を取り上げ、ドラマで人々の心にある偏見を、そしてドキュメンタリーで差別や偏見などで苦しむ人々の心の痛みを伝える作品です。	実写	23分		2009		○				
21	人権全般	日常の人権 II	日常生活の中に潜むさまざまな人権問題を取り上げ、ドラマで人々の心にある偏見を、そしてドキュメンタリーで差別や偏見などで苦しむ人々の心の痛みを伝える作品です。	実写	23分		2009		○				
22	人権全般	夢のつづき	高齢者の尊厳を守り、だれもが最後まで自分らしく生きることができる社会を実現するためにはどうしたらよいか…。自分自身の問題として考え、行動するきっかけにしていく作品です。	アニメ	40分		2008		○				
23	高齢者の人権／子ども・若者の人権	虐待防止シリーズ 全3巻	虐待防止のための対処法を示すシリーズ。「幼児・児童虐待」「高齢者虐待」「配偶者虐待」の3タイトル	実写	25分		2008		○				
24	障がいのある人の人権	アイム ヒア 僕はここにいる 僕の歩み～発達障害とともに～	知的には遅れはないものの、発達がアンバランスなために学校や社会の中で生きにくさを感じ、苦しんでいる“発達障害”の人たちのことを理解するとともに、どんな支援が必要であるかを学び、すべての人権が尊重される豊かな社会の実現について考えます。	実写	54分		2006		○				